

2013年度 後期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	生物環境化学科						
科目名	生理学						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年後期		
必修・選択の別	必修						
担当者	神武洋二郎						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞が増殖する仕組み、DNAに変異が起きた場合の修復機構について説明できる。</li> <li>・生物がどのようにして個体の数を増やしているのか、モデル生物の発生分化について記述できる。</li> <li>・外部環境から身を守る為の免疫システムについて統合的に説明できる。</li> <li>・精密な生命システムの破綻による疾患について説明できる。</li> <li>・外部環境を認識する感覚器、神経や、内部環境を調節する内分泌系について説明できる。</li> </ul>						
日程と内容	9/19：導入講義、授業の進め方、概要の説明、成績評価法など。 9/26：細胞が増殖する仕組み-DNA複製、細胞周期- 10/3：細胞が増殖する仕組み-細胞周期の調節、DNA変異と修復機構- 10/10：個体を増やす-減数分裂、生殖- 10/17：発生・分化・器官形成-モデル生物を例として- 10/24：外部環境から個体を守る免疫システム(1) 10/31：外部環境から個体を守る免疫システム(2) 11/7：外部環境から個体を守る免疫システム(3) 11/14：中間まとめ 11/21：再生と死-幹細胞の機能とアポトーシス(1) 11/28：再生と死-幹細胞の機能とアポトーシス(2) 12/7：老化 12/12：がん 12/19：総合まとめ 1/16：生命科学技術						
成績評価基準	定期試験	70%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習	30%					
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞が増殖する仕組み、DNAに変異が起きた場合の修復機構について説明できる。達成した。</li> <li>・生物がどのようにして個体の数を増やしているのか、モデル生物の発生分化について記述できる。達成した。</li> <li>・外部環境から身を守る為の免疫システムについて統合的に説明できる。達成した。</li> <li>・精密な生命システムの破綻による疾患について説明できる。達成した。</li> <li>・外部環境を認識する感覚器、神経や、内部環境を調節する内分泌系について説明できる。未達成。</li> </ul>						
反省点	時間が足りず、説明不足になってしまった項目がいくつかあった。						
来年度の計画	説明に時間がかかる箇所は、分かりやすいパワーポイントの図を使用する。授業のペース配分や、構成を見直し、時間内で全説明が終わるようにする。						
授業評価アンケートに対するコメント	特に不満のコメント等はなかった。自己学習のポイントが低かったことから、もう少し予習復習の説明時間を長く取る等の工夫が必要である。						
履修登録者数	70名	定期試験 受験者数	68名	合格者数	66名	合格率	97%